



栄村 奈々 さん (39)

まく ひと しごと 枕崎 × 人 × 仕事 No.14

枕崎商工会議所 / 中央町

「枕崎 × 人 × 仕事」では、枕崎にあるさまざまな仕事と、その仕事に携わる人を紹介します。今日は、枕崎商工会議所取材しました。



県内に11カ所ある商工会議所、枕崎商工会議所もその一つです。今回は枕崎商工会議所に務める栄村奈々さん取材しました。本市出身の栄村さんは、別府小・中学校を卒業後、市外の高校へ進学しました。高校時代は簿記やパソコンの情報処理検定、ワープロなどの資格を取得し、自分の生まれ育ったまちを少しでも住みよいまちにしたいと、高校卒業後に枕崎商工会議所に入所しました。入所したての頃は、関係機関から届く文書・書類の受付・回覧業務からスタートしました。その後は、検定業務や市内事業所の確定申告のサポートとして、経理・記帳業務の手伝いなども行いました。その後、結婚

し、出産。枕崎商工会議所で初めて育児休暇を取得しました。「職場の理解や上司、先輩の協力のおかげだった」と振り返る栄村さん。「だからこそ、会議所のために頑張ろう」と話します。現在は業務課の係長として、商品券の発行業務などに携わり、売り上げが減少した事業所や地域経済の活性化のために尽力しています。また、市内事業所の福利厚生支援業務として、保険や退職手当の手続きなども担っています。「この仕事のやりがいは、相談に来た事業者さんに、あなたに相談して良かったと喜んで帰ってもらえること。自分自身の次にも繋がります」と栄村さんは話します。休日には子どもとバスケットボールやキャッチボールなどをするのが楽しみで、イベントがあれば今後の仕事に生かそうと、市内外に足を運びます。「仕事と家庭の両立を経験者として、リーダーとして後輩に伝えていき、働きやすい環境をつくらせていきたい。そして、地域の事業者から信頼される、困った時、相談したい時に気軽に立ち寄ってもらえる商工会議所にしていきたい」と、今後の目標を話します。

地域おこし協力隊
活動レポート

協力隊 が行く!

今月の担当は
りっか隊員です!



こんにちは、地域おこし協力隊の篠塚立夏です。還暦目前の父が老後の楽しみに、と気象予報士の資格を取りました。昔からミーハーでしたが、この歳で国家資格に手を出すとは。娘の私は5月で30歳。父を見習い、年齢に捉われず励みたいと思います。



去る3月、桜山中学校で行われた「方言と共通語」の特別授業にお邪魔しました。「まくらざき学校応援団ボランティア」の長野幸造さんが講師となり、当時2年生だった20名の生徒さんに向けて、長野さん自作の枕崎弁絵本を読み聞かせするという内容でした。 昨今、枕崎弁を話すのは年配の方々がかりになっており、若い世代は「話さない」というより「話せない」状況になっているそうです。その実態を確かめたいと思い、授業終了間際にアンケートを取らせてもらいました。結果、やはり枕崎弁を「聞く」機会があるという子は半数を超えていましたが、「話す」子はごく少数。話す相手もほとんどが祖父母で、親や友人と話すことはほとんどないようでした。ただ、今回のような授業のおかげもあってか、「枕崎弁を話せるようになりたい」「枕崎弁を勉強することは大切だ」と思ふと回答した子どもも半数あり、ほっと一安心です。 私人としては、方言を継承することを強要したいわけではありません。言葉は生活の中に生きるものであり、生活が変容すれば言葉も変わっていくのは当然のこと。しかし、地域の成り立ちを反映する文化遺産として、枕崎弁の魅力を伝えていきたいと考えています。

「枕崎の言語と文化を知る本」 図書館にある「枕崎・坊津の言語と文化(市川照彦編・昭和51年)」という郷土資料が面白かったのでご紹介いたします。枕崎市内の東西南北それぞれに言葉が異なりますが、地区ごとに語彙やイントネーション・アクセント、その歴史文化的背景など細かく広域的に調査されています。いわゆる浜弁によく見られる促音は、東南アジアの言語に由来するのではないかと、という考察が興味深かったです。ぜひ読んでみてくださいね。 【残り1年、1日1日を大切に】 地域おこし協力隊としての任期が1年を切りました。残日数を明確に知った方が日々張りが出ると思ひ、スマホにカウンタダウンアプリを入れてみました。現時点で365日。この市報が発行される頃には、残り30日程度になっていいると思ひます。毎日のように「来年度以降はどうするの?」といろんな人に聞かれます。正直なところ、私自身にも全くわかりません。「枕崎に残ってほしい」と言ってくくださる方々のお気持ちは本當にうれしく受け止めています。ですが、人生あと50年、長ければ70年も続くようなので、より多くの可能性(選択肢)を模索しながら、より豊かな将来を見据えていきたいと思ひます。

市長

コラム

vol. 26



個人と社会

こんにちは。前田祝成です。「個人ではできない事柄を代わってやるのが政治」、これは、今年の2月に中学生生徒連盟の理事会で市内の中学生に講話をした時に「政治について話した言葉です。市内の中学校の生徒会の役員さんで組織する会で30分ほどの講話の依頼がありました。何を話そうかと悩んだ末、自分の仕事を振り返ることもできると考え、「政治」について話をしました。と言っても、難しい話ではなく、できるだけ分かりやすく、まずは「個人と社会」について、身近なところから話をしました。人は一人で生まれてきます。そして、自分と自分以外の人で構成される社会の中で生きていくこととなります。生まれたばかりの時は、母親がまず初めに会おう自分以外の人です。まずは、家庭という社会で暮らし始めます。保育園や幼稚園に通い始めると、そこでの新しい社会が現れます。小学校に入学すると小学校という社会。中学校に入学すると中学校という社会。高校に入ると、その社会は少し広がっていきます。そうやって人間は成長と共に広い社会、つまり、自分以外の多くの人の関わりの中で暮らしていきます。そして社会の中で、どうしても個人ではできない事柄が出てきます、それを代わってやるのが政治ではないでしょうか、と中学生に話しました。例えば、学校生活でも、自分の身の回りの整理整頓は個人でできるけど、学校全体の美化はみんな(学校や生徒会)でやる。自分の身の安全は個人で守れるけど、学校全体の防災はみんな(学校や生徒会)でやる、など。そのような話をしながら「個人ではできない事柄を代わってやるのが政治」という基本を自分自身としても振り返ってみたいとこころです。

「今、新しい風が吹く -野見山暁治展」 ~未来へのメッセージ~

本市が1989年から2013年まで開催した現代美術の全国公募展「風の芸術展」の審査員を務めた洋画家で、文化勲章受章者でもある野見山暁治氏の展覧会が南浜館で開催中です。

昨年100歳を迎え、今もなお創作活動を続ける野見山氏の水彩画、油彩画合わせて50点と、今回、本市に寄贈いただいた貴重な油彩画2点も展示しています。また「風の芸術展」の歴代大賞作品も展示していますので、ぜひご覧ください。

- 会期 5月30日(日)まで 会期中無休
- 会場 南浜館
- 観覧料 一般300円(240円)、高校・大学生200円(160円)、中学生以下は無料

- ※()内は団体20名様以上の割引料金
- 協力 一般財団法人野見山暁治財団
- 助成 公益財団法人朝日新聞文化財団
- 後援 枕崎国際芸術賞展支援協会・枕崎市文化協会
- その他 東京2020応援プログラム認証事業、Beyond2020認証事業



▲「オニの棲家」(油彩画) 南浜館寄贈作品



スポーツ・文化 イベント情報

南浜館
開 9:00 ~ 17:00
※入館は16:30まで
休 毎週月曜日
※月曜日が祝祭日の場合は翌日
問 スポーツ・文化振興課
TEL72-9998

